

蒲郡市立蒲郡中学校

<8月5日>

授業名人の曾田隆之先生（元蒲郡市立蒲郡南部小学校長）をお招きし『個人研究の進め方・まとめ方』のテーマで、次の内容の講話をしていただきました。

教師には経営者の感覚が必要である。教師にとっての経営とは、生徒を指導し、生徒の能力を高めていくことである。そのためには、

- ①どんな実態の生徒であるか（どのようなわかり方 レディネスの程度）
- ②教材の価値の吟味（教材の系統性 教材の生徒にとっての価値や意味）
- ③めざす生徒像に向けて（どんな方法で どんな時に どのくらい時間を使って）

について考えていく必要がある。教師にとってすべての営みが意図的・計画的なものであるべきだ。日々の実践を吟味し評価していけば、道筋そのものが実践記録となり、それをまとめれば教育論文となる。実践に裏打ちされた研究的実践が、生徒の力を伸ばし教師の力を伸ばす。経験ではなく教師の意欲と問題意識がものをいう。

<9月30日>



曾田隆之先生の指導のもと、若手教師による中1社会『奈良時代・聖武天皇が信じた政治』の授業公開を行いました。「聖武天皇を評価しよう」の学習課題を追究することによって、奈良時代を学ぶ授業でした。

協議会では、本時の学習課題が生徒の考えを深めることにつながっていったかを中心に話し合われました。曾田先生からは、単元を貫く課題設定、子どもの考えを引き出し深める教師の姿勢等についてご指導をいただきました。「葛藤があって初めて学びがある」という言葉は印象深いものでした。

最後に、「蒲中の授業はこういうものだという『蒲中スタイル』を創り上げていきなさい」という助言をいただきました。全職員で真摯に考えていきたいと思います。